

令和 7 年度 県立荃崎高等学校自己評価表

目指す学校像	社会人として求められる基礎学力及び基本的生活習慣の定着、自己の将来を見据えた職業観・勤労観に基づく進路実現を支援し、豊かな人間性を備えた社会人の育成に努める。 1 生徒と教職員が共に学び、成長できる学校 2 生徒・保護者・教職員の信頼関係が構築された学校 3 懇切丁寧にきめ細かな指導・援助を実践する学校 4 一人一人の個性に応じた多様な進路実現が図れる学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付けた人材 ・豊かな人間性を備えた人材 ・社会人としての教養と規範意識を身に付けた人材 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動と進路実現に必要な能力や態度を育成するキャリア教育 <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた選択科目の設定（基礎・基本の定着を目指す科目、考察を深める科目） ・興味・関心に応じた選択科目の設定（活動的な科目） ・学んだことを発表したり、試したりする自己決定の場の設定（授業、学校行事など） 	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりを持ち、自他を尊重して信頼を築こうとする生徒 ・基本的生活習慣を身に付け、健康的な生活を心がける生徒 ・学校や社会の規範を守って日常生活ができる生徒 ・意欲的・主体的に学習や行事に取り組める生徒 ・自己実現に向けて日々努力する生徒 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> ① 学習指導の工夫・改善により、生徒の基礎学力が向上し、学び直したいという意欲をもつ生徒が増加している。 ② 基本的生活習慣が身に付いていない規範意識に欠ける等の生徒は徐々に減りつつあり、落ち着いた学校生活を過ごせるようになってきた。 ③ 生徒の能力・適性等に応じて、四大・短大・専門学校進学から就職まで多様な進路実現に対応している。 ④ 特別な支援を要する生徒に係る引き継ぎについても中学校からの引継ぎができるようになり、就労支援も含め、連携・協働した組織的対応ができるようになってきた。 ⑤ 教職員の時間外在校時間(月平均 13 時間 24 分、月平均 45 時間超過者の割合 4.4%、月平均 80 時間超過者割合 2.1%)を把握することができた。 <課題> ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立って授業改善を進めるとともに、すべての生徒にとってわかりやすい見通しのもてる授業展開ができるようにする。	1 基礎学力の定着と、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進する	ア 生徒の能力に応じた指導内容の精選、少人数授業や T T 授業の実施、BYOD による端末機器の効果的な活用によって、「分かる授業」を展開し、基礎学力の定着を目指す。(授業満足度「知識・技能の向上」3.5 以上) イ 授業の中で、自分の考えを述べたり書いたりする自己決定の場を積極的に提供することで、表現力の向上を図る。(授業満足度「思考力、判断力、表現力等の向上」3.5 以上) ウ 教職員相互の授業参観を行い、学習指導の工夫・改善を図ることで、生徒の学習意欲を喚起し、見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにする。(授業評価「Teaching」(適切な目標や課題の設定、教え方の工夫)、「Coachig」(適切なアドバイス) 3.5 以上)	B
	2 安全・安心に学べる環境づくりに取り組む	ア ユニバーサルデザインの考えを取り入れ、すべての生徒にとっても「分かる授業」を展開する。 イ スクールカウンセラー・キャンパスエイドの活用や、個別面談の充実を図ることで、豊かな人間関係づくりを支援し、安心して登校し学べる環境を醸成する。 ウ 通級指導の活用などにより、生徒の生活面や学習面での困難の軽減を図る。 エ 学校図書館の整備により、生徒が読書や学習で利用しやすい環境を整える。	B
	3 基本的生活習慣の確立を図る	ア 生徒自ら服装・頭髪等の身だしなみや言動を正せるよう、登下校指導や日常の挨拶・声かけを推進する。 イ 家庭と連携・協働することで遅刻・早退・欠席を少なくし、欠課時数の増加に	B

別紙様式2 (高)

<p>② 生徒の発達や理解にあわせた支援体制を構築し、教育相談の機能を生かし、豊かな人間関係づくりを支援する。</p> <p>③ キャリア・パスポートを活用した、見通しがもてるキャリア教育を充実させ、生徒の進路意識の向上を図るとともに、多様な進路希望に対応できるような体制を構築する必要がある。</p> <p>④ 主体的に活動できる学校行事や生徒会活動等の工夫改善をして、集団の一員としての意識や自己肯定感の向上に対する支援を充実する必要がある。</p> <p>⑤ 基準を超える超過勤務の解消に向けて、学校運営体制と業務改善を推進する。</p>	4	多様性を認め、他者を尊重する態度を育成する	<p>よる転退学者数が減少できるようにする。</p> <p>ア お互いを思いやり、尊重する態度を育成し、豊かな人間関係づくりを支援する。</p> <p>イ いじめは、「人間として絶対に許されない」という意識を醸成し、いじめをしない態度や力を身に付けるような働きかけを行う。</p>		B	
	5	キャリア教育の充実を図る	<p>ア 各年次段階に応じた進路ガイダンスや進路別見学会、ロングホームルーム等による進路情報の収集と提供により、進路意識の向上を図る。</p> <p>イ 先を見通した綿密な面談により、生徒や保護者の進路希望を把握し、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。</p>		A	
	6	特別活動の活性化と部活動の充実を図る	<p>ア 生徒が自主的、実践的に活動できる環境づくりに努めるとともに、活動を通して豊かな人間関係づくりや自主性や自発性の伸長を支援する。</p> <p>イ 教職員や外部指導者等による支援体制を整備し、部活動の充実を図る。</p> <p>ウ ホームルーム活動を中心に、キャリア・パスポートを活用して学びを振り返るとともに、将来への見通しを持てるようにする。</p>		B	
	7	フレックススクールとしての特長を生かした教育活動の向上・推進を行う	<p>ア 生徒も教師も成長できる学校を目指し、「茎崎プロジェクト2025」を計画・実行する。</p> <p>イ フレックス制・単位制の特長を生かした教育活動により、「学びの質保証」を行う。</p> <p>ウ 校内研修の充実と研修機会の有効活用によって、教職員としてのスキルアップを図り、生徒に還元する。</p>		B	
	8	職場環境を改善し、働き方改革を推進する	<p>ア 職員のウェルビーイング向上のため、超過勤務時間者の校務を見直す等、業務の平準化に努める。</p> <p>イ ライフワークバランスを重視し、時差出勤制度等の各種制度の積極的な活用を図る。</p> <p>ウ 業務の適正化や校務DX化、可視化を推進し、業務負担を軽減するよう努める。</p>		B	
	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
	教科指導	① 「分かる」授業を展開する。	生徒の学習意欲が向上できるように生徒の実態に合った授業や評価(テストを含む)を行う。	A	B	①生徒による授業評価の「授業満足度」項目における評価で「思考力、判断力、表現力等の向上」が次年度は上昇するような授業展開、授業計画を行う。 ②基礎力診断テストの語彙の正答率は全国平均の80%を超えるが、2回目の方が下降している。次年度は基礎力の維持と向上を図るような補助教材やワークシートの工夫をする。
			科目担当者間での共有を密に行い、学習状況が不十分な生徒へのサポートを充実させる。	A		
ICTを積極的に取り入れ、生徒が主体的に取り組めるわかりやすい授業づくりに努める。			B			
② 基礎学力の向上を図る。		授業の取り組みや基礎力診断テスト等の試験結果も活用しながら、常用漢字やことわざ、平易な読解力等の基礎学力を向上できるようにする。	B			
		学び直しの授業を通し、集中して学習に取り組む態度を育成するとともに、思考力・判断力・表現力を育むために必要な基礎的な学力を身に付けられるようにする。	B			
教科	地歴・公民	① 基礎学力の向上を図る。	基礎的・基本的な事項を繰り返し学習する機会を設けることにより、授業での理解を確実なものとする。	A	A	①授業理解の指標として考査平均得点率を参照する。次年度は教科内

別紙様式 2 (高)

指導		小テストや定期考査等を通して、知識を定着させることにより、基礎学力の向上を図る。	B	<p>の A 基準としていた定期考査の平均 70% 以上を達成できるよう生徒の学習理解に重きを置き指導を行ってきたい。</p> <p>② 授業評価アンケートの「5」の項目の教科内平均を参照する。生徒による授業評価の項目 5 「この授業を通して、知識や技能 (技術) が身についた。」の教科内の平均は A 目標の 3.5 以上を達成することができた。次年度はより高い数値を得られるよう生徒の実態に即した教材の開発を行ってきたい。</p> <p>③ 授業評価アンケートの「6」の項目の教科内平均を参照する。生徒による授業評価の項目 6 「この授業を通して、考えたり表現したりする力が身についた」の教科内の平均は A 目標の 3.5 以上を達成することができた。次年度はより高い数値を得られるよう生徒の表現活動の機会を増やしてきたい。</p>	
	② 生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	生徒の興味関心に応じて、教材を作成したり、ICT 等を活用したりすることにより、生徒の授業満足度を高める。(【項目 5】この授業を通して、知識や技能 (技術) が身についた。)	A		
	③ 表現力の向上を図る。	プレゼンテーションやエッセイなどの活動を積極的に取り入れ、言語活動の充実を図ることで、生徒が様々な方法で表現する機会をつくる (【項目 6】この授業を通して、考えたり表現したりする力が身についた。)	A		
教科指導	数学	① 基礎学力の向上を図る。	「高校生のための学びの基礎診断」の結果やドリルを活用し、個々の能力に応じて小・中学校の復習から高校数学の応用問題まで幅広く取り扱い、基礎学力の向上を図る。	C	<p>① 「高校生のための学びの基礎診断」の 2 回の結果をもとに評価をする。(2 回目の GTZ) \geq (1 回目の GTZ) を満たす割合は 33% であった。学びの基礎診断の対策となるような問題提供や授業をうまくできていなかったことが原因と考えられる。今後は、基礎数学などの授業で取り入れるよう画策する。</p> <p>② 生徒アンケート「学習意欲の向上を図る」において、「1 ととてもできた」の割合が 33% であった。数学科での話し合いを月 1 回行い、授業の実態把握や情報共有をこまめに行えたことにより、教員間のギャップを少なくすることができた。今後も話し合いをこまめに行い、業務の効率化を図っていく。</p> <p>③ 数学検定受験者 6 名かつ、個別指導の実施 6 名であった。このまま</p>
		② 生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	興味・関心を高めるため、数学科での話し合いをこまめに行い、生徒の実態に合わせて学習内容や教材を工夫する。	A	

別紙様式 2 (高)

		美術	③ 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	生徒の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の思考や表現について理解し、その思考や表現が実現できるよう適切に支援する。	A	A	り組めるようにする。 ③表現と鑑賞において他者との協働的な学びとなる活動を行う。
			① 美術への興味・関心を高め、表現する喜びを味わう態度を育む。	社会における美術の役割や作者の表現の意図といった美術に関する知識を深める時間を設ける。また、自身の興味関心について考え、様々な造形要素や素材に触れながら表現活動を楽しむような授業づくりをする。	A		
			② 基礎的な知識と技能の修得を図る。	鑑賞活動やワークシートの記入を通して、基礎的な知識を身に付ける時間を設ける。また、知識や技術を視覚的に分かりやすく伝えるために、教員の実践や ICT を活用する機会を設ける。さらに、生徒の資質や能力に応じて適切な技術支援をする。	A		
		書道	③ 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	生徒の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の思考や表現について理解し、その思考や表現が実現できるよう適切に支援する。	A		
			① 創作意欲の向上を図る。	小筆、大筆の特徴に合わせた書の表現を確認し、創作の意欲をもてるようにする。臨書から漢字仮名交じり文、実用の書へ発展させる。	A		
			② 作品を完成させる喜びを味わわせる。	生徒の希望に合わせ、色紙や篆刻を試み、文化祭、学年末に合わせ、作品づくりを目指す。	A		
			③ 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	生徒の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の思考や表現について理解し、その思考や表現が実現できるよう適切に支援する。	A		
教科指導	英語	① 基礎学力の向上を図る。	「英語コミュニケーションⅠ」や「基礎から学ぶ英語」の授業等を通して、中学英語の既習事項との関連性を意識させた授業を展開し、英語学習における基礎的・基本的な学力の向上を図る。	B	A	①「読むこと」「書くこと」が課題となっている生徒への支援。 ②多様な生徒の学習能力向上を図るため、授業改善を続けていく。 ③ICT機器を用いた「聞くこと」「話すこと（発表、やり取り）」の練習を実施し、技能の向上を図る。 ④授業の満足度と生徒の技能の向上が比例するような取り組みを行う。	
		② 学習意欲の向上を図る。	ティームティーチングや少人数授業を通して、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行い、生徒の学習に対する意欲の向上を図る。	A			
		③ 音声面を重視しつつバランスの取れた 4 技能の向上を目指す。	教科書の英文音読練習を繰り返し行うことで、英文に触れた際に自分自身で正しい発音やイントネーションを再生し内容を理解する能力の向上を図る。	B			
			ALT と連携のとれたティームティーチング授業で生きた英語に直接触れることで、「聞くこと」「話すこと（発表、やり取り）」の能力の向上を図る。	A			
			ICT 等を活用し、教科書に出てくる文法や重要な表現を、具体的な言語使用場面と結びつけて指導をする。	A			
		④ 授業満足度を向上させる。	授業を通して、生徒の取り組みや反応を見極めつつ、定期的に授業に対するアンケートなどを行うことで、7割以上の生徒が達成感を得られる授業展開を目指す。	A			
教科指導	家庭	① 主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。	始業・終了時の挨拶・服装指導を徹底し、学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付けることで、学習に主体的に取り組めるようにする。	A	A	①ホームプロジェクトの発表の機会を作ったことが課題提出率 100%の結果になった。今後も続けていく。 ②「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価が平均 3.2 であった。今後も生活に生かせるような働きかけを継続する必要がある。	
		② 基礎学力と技術の向上を図る。	興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組めるようにすることで、日常生活が改善できる知識・技術の向上を図る。	A			

別紙様式 2 (高)

教科指導	情報	① パソコン操作技術の向上を図る。	一人一人の能力に応じて指導し、Word や Excel PowerPoint プログラミングの基本を習得できるようにする。	A	B	①各ソフトウェアやプログラミングの基本の習得については、多くの生徒で概ね達成できたが、基本操作についても個々の能力差が大きく、個別対応がしきれなかった。基本操作の学習の時間を余裕をもって取りたい。 ②実習は好むが座学が苦手な生徒も多く、内容によっては理解が深まらない生徒が多かったが、身近な題材についてはよく取り組んだ。今後はリアルタイムの情報を授業に生かせるように努めたい。
		② 情報モラルの向上及び情報技術の効果的な利用方法に対する理解の向上を図る。	携帯電話やスマートフォンなど身近な情報機器を教材として取り上げ、情報化が社会に及ぼす影響や課題についての理解を深めさせ、正しい情報モラルや情報技術及び情報機器の効果的な利用方法について身に付くよう授業を展開する。	B		
教科指導	総合	① 自己肯定感・有用感の育成	ライフスキルを高めるための探究活動や体験活動を通して、コミュニケーション能力を高め、生徒が抱える様々な問題を解消できるように支援し、前向きな学校生活が送れるように教育環境を整える。ポジティブに生活できている割合を高める。	A	A	①自己肯定感・有用感の育成については、グループワークでの積極的な参加を促し、達成感や有用感を感じられる内容を多く取り入れていきたい。 ②日本や中国の文化について理解を深めさせるでは、「郷土の焼きものや文化」「日本の芸能と文化」「中国の言語と文化」の授業を通し、社会人聴講生や、社会人講師と十分に関わりが持てる工夫も必要と感じた。
		② 日本や中国の文化について理解を深めさせる。	日本の伝統芸能や郷土の文化（三味線や焼きものなど）に触れることや、中国の言語と文化について学ぶことを通して、より広い視野を身に付けさせる。加えて、社会人受講生徒との学びを通して、社会性を高める。	A		
教科指導	商業	① 主体的に考える能力と態度を育てる。	ビジネスに必要な経済に関する仕組みや概念について理解できるよう、単なる知識の伝達ではなく、調べ学習などを取り入れ、生徒の主体性を重視した学習になるよう心掛ける。併せて、調べた内容の報告活動を通して、思考力・判断力・表現力の向上を図っていく。	A	A	①ビジネス基礎、ビジネスコミュニケーションとも今年度初めて実施したので、より効果的な学習の展開について模索していく。
		② 社会人として必要な資質・能力を育成する。	実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生徒の学習に対する意識を向上できるようにし、12月に実施されるビジネス・コミュニケーション検定で多くの生徒の合格を目指す。	A		
教科指導	家庭（専門）	① 主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。	始業・終了時の挨拶・服装指導を徹底し、学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付けることで、学習に主体的に取り組めるようにする。	B	B	①課題提出が70%であり、改善が必要。 ②「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均が3.2以上ではあったが3.5を目指してより実践的な内容を取り入れるよう画策したい。
		② 基礎学力と技術の向上を図る。	興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組めるようにすることで、日常生活が改善できる知識・技術の向上を図る。	A		
教務部		① 多様な生徒に対応し、基礎学力の定着を図る。	ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業や学習指導の工夫・改善のため、教員相互間での授業参観や教科研修の企画をする。	B	B	①授業参観や授業改善をはかるための教科研修を引き続き企画する。 ②教育課程の見直しを推進する。 ③3部制単位制普通科高校として教
		② 業務の適正化や可視化を図る。	校務を分担し、業務の見直しや平準化に努め、校務の効率化を図る。	B		
		③ フレックススクールの広報活動	学校案内パンフレットやホームページを通して、本校の取り組みを発信する。	A		

別紙様式 2 (高)

	の充実を図る。									
	④ 欠課時数超過による科目未履修の生徒の低減を図る。	段階指導を行い、各年次や家庭と連携し、欠課過多生徒の支援に努める。		A					育活動の充実・発展が図れるよう、学校行事の運営方法等について検討する。	
	⑤ 段階別指導(観点別評価)の見直し・整備を図る。	各教科・各年次と連携し、生徒の指導と支援に努め、成績不振による科目単位未修得の生徒を0にする。		B						
進路指導部	① ICTの活用を促進し、事務作業に係る時間・労力を削減する。	実態の把握と指導材料とするために、Google formを用いて進路希望調査の実施・集計を行う。 Handy 進路指導室デジタル化応援プランを利用し、求人票処理の効率化を図る。		A						①マークシート模試の是非、年次ごとの実施回数・時期を再検討する。 ②3年次の進路見学会の実施時期・内容を早期に決定する。 ③インターンシップと現場実習等との違いを早期に生徒・保護者に周知する。 ④卒業生応援プランの成果を在校生に還元する。 ⑤進路業務分担を再考する。
	② 望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	大学・専門学校等の担当者や周辺事業所・職業安定所・地域福祉課等と連携し、進路ガイダンス・進路講演会・進路見学会等を企画する。 様々な職種への理解を生徒に促すとともに、社会人として相応しい資質を育むために、会社見学を1人2社以上行う。		A						
	③ 組織的な指導体制を構築する。	生徒の入学から卒業までの一貫した指導計画を全年次に浸透させ、各業務の運営が円滑になされるようにするとともに、各年次との連携を密にするため、部会等を月1回程度開く。		C						
		卒業生に対するのケアを行うとともに、各企業に対する教員の知見を深め、在校生への就職指導への一助とするために進路先企業を訪問する。		A						
	④ 個に応じた指導の充実を図る。	進路ガイダンスや進路見学会において多様な講座・見学先を提供し、生徒の進路意識を深化させ、進路希望実現を図る。		A						
		生徒が自ら進路指導室に足を運ぶ機会を増やすよう努めつつ、普段から個々の生徒との面談・相談の充実を促進するために、各種資料を容易に検索・閲覧ができるよう整備する。		A						
		P T A総会に合わせ、『進路の手引き』を発行し、卒業年次対象の進路講演会を実施する。		A						
		国公立推薦入学者の輩出を目指すために、希望者に対して1年次より個別指導を充実させる。		C						
	⑤ 就労支援の充実を図る。	特別支援学校や関係機関との連携を密にし、保護者・生徒の要望・実情に合った情報提供を行う。		A						
生徒支援部	① 生徒支援体制の一層の充実を図り、基本的な生活習慣の確立に努める。	挨拶によるコミュニケーション能力の向上に伴う、良好な人間関係の構築を図るため、登下校指導の体制を充実させる。		B					①午後部の登下校指導の実施方法と実施率を上げる。また、校内巡視が徹底できていないため、その必要性の共通理解を図る。また、巡視の方法や当番の再検討を行う。 ②臨時で支援部会を開くことが多かったため、部会を開く曜日や時間を予め複数回設定しておく。部会に参加できなかった教員との情報共有をする。 ③年次との連携を密にし、年次の負担の軽減をしたり、部会を指導の難しい生徒についての相談の場にしたりする。	
		いじめの未然防止、早期発見のためすべての休み時間を生徒指導主事及び係分担した全教員で生徒を見守る。発見した場合、被害者の安心安全を確保する措置を速やかに講じ、関係機関との連携を図りながら適切に対応する。		B						
		服装頭髪指導やマナー指導の目的を職員間で共通理解し、社会人としての素養を育成する。		B						
		校則を基準にしながら、個々の事情に応じた指導も個別に行う。		B						
		定期的に生徒支援部会を実施する他、必要に応じて臨時での部会を実施して情報を共有する。		A						
	② 生徒指導に関する教員間の共通理解を深める。	学校全体として同じ方向性をもった指導を行うため、職員朝会を通して、生徒支援部会の情報並びに適宜必要な情報を全職員に周知しながら支援にあたる。		A						
		生徒指導に関する知識・理解を深め、個々の職員の指導力向上を図るため、校内研修会を実施する。		B						
特別活動部	① 生徒が主体的に取り組む生徒会活動を促進する。	生徒会活動の周知を図り、広く生徒の意見を取り入れた生徒会活動を促進するために、生徒会新聞を発行する。		A						①次年度の生徒会役員向けの説明会

別紙様式 2 (高)

	② 生徒会が中心となり、部活動・委員会活動・HR活動の活性化を図る。	生徒会主催で部活動、各種委員会、HR活動と連携した会議や行事を計画・実施し、生徒が意欲的に参加できるようにする。	A	A	に多数の生徒が参加した。文化祭などの活動を通して、生徒会役員に対する関心を高められるよう努めていく。
	③ よりよい人間関係の形成並びに集団生活の構築や、社会参画並びに自己実現に繋がるような行事を企画・運営する。	各部の生徒が偏りなく活動できるよう、生徒や学校の実態に合った行事（特に文化祭）の実施を検討する。	A		
		教科学習・教科外学習・校外活動の3つの視点で学びを振り返るとともに、将来への展望や見通しを持てるようにするために、各行事においてキャリア・パスポートを活用する。	A		
保健厚生部	① 心身の健康の保持増進を図る。	各種検診を必ず受診するよう呼びかけ、自分の健康を意識させる。未受診者 4.5%未満を目指す。	A	A	①救急対応に関する職員間の知識・対応力の均一化を図る。救命講習を継続的に実施し、新任職員も含めた共通理解と役割分担の確認が必要。 ②環境美化活動が形骸化しないよう、生徒の主体性を高める取組を工夫する。清掃や美化活動の意義を理解させ、役割分担や評価の工夫が課題。 ③配慮が必要な生徒への対応について、教職員の理解と支援スキルの底上げ。年1回以上の研修に加え、日常的に相談・学び合える校内体制づくりが必要。 ④生徒の困難さが複雑・多様化している現状に対応するため、校内外の連携を生かした継続的支援。単年度で終わらない支援の見直しを持つ必要がある。
		生徒が安心・安全に学校生活がおくれるように、救急処置・救急体制に万全を期すとともに職員救命講習研修会を実施する。	A		
	② 保健教育を充実させる。	性教育講演会を実施し、命の大切さや性感染症の理解を深める。	A		
		生徒の健康・安全の意識を高めるために、保健室に配置する図書・資料・掲示物の月1回以上の更新を図る。	A		
	③ 学習環境を整え、環境美化・整備を行う。	学校安全の確保に努め、安全点検を月1回行い、破損箇所・危険箇所について事務室と連携して迅速に対応する。	A		
		快適な学習環境や整備を維持するため、生徒が中心となって清掃・環境美化に取り組む。	B		
	④ 教育相談・個別支援の充実を図る。	配慮が必要な生徒に対する支援の方法を学ぶ機会を増やす特別支援教育巡回相談や校内研修会を年1回以上実施する。	A		
		スクールカウンセラー、キャンパスエイド、スクールソーシャルワーカーと適切に連携を図るためにカンファレンスに担任もしくは、年次職員が参加し、情報を共有する。	A		
特別支援教育コーディネーターと協力し、生徒に関する情報や授業観察等から気になる生徒の状況を把握する。必要に応じて、生徒の生活上の困難が改善・克服されるよう通級指導を充実させるために1対1の授業場面だけでなく、小集団でのグループワークを実施し、他者とのやり取りや状況に応じた対応の機会を設定する。		A			
渉外部	① P T A活動への理解と参加率の向上を図る。	合格者説明会、入学式等において、P T A活動への自主的な参加と協力を呼びかける。	C	B	①参加率は微増ではあったが、まだ多くの保護者に活動を理解してもらっていないとは言えない。新入生の保護者に説明できる機会に、より詳しく説明し協力を求める。 ②文化祭において、継続してPTA企画が実施できるように、年度当初より計画していく。広報委員会、生徒指導委員会は今年度と同様の活動ができるよう案内をする。
		本部役員との連携を密にし、P T A行事や各種委員会運営の円滑化を図る。	C		
	② P T A活動の活性化を図る。	文化祭、研修会等での活動を通して、会員間及び教員との親睦を深め、満足度を高めることで、P T A活動のさらなる活性化を図る。	B		
		広報委員会では、会員の負担軽減に努め、委員の意見をできる限り取り入れた広報誌を年1回発刊する。 生徒指導委員会では、会員が都合をつけやすいよう少なくとも1ヶ月以上前に実施案内をすることで参加者増加を図る。	A A		
情報メディア部	① ICT機器の保守管理に努める。	電子黒板等、教室での教育用情報機器の利用環境の整備を図る。	A	B	①突発的に発生したICT機器に関するトラブルは対応することができていたが、次年度は日頃からICT
		日常業務が円滑に実施できるよう、日々のセキュリティ管理とトラブル対応に努める。	A		
		教育活動に必要な機器の導入・整備・更新を適切に行う。	B		

別紙様式 2 (高)

		校内ネットワーク環境を整備し、適切な保守管理に努める。	A		
	② 学習指導における ICT 活用の充実を図る。	教育に必要なソフトウェアの調査・研究、および導入・利用を図る。	B		機器の点検をこまめに行い、トラブルの未然防止に努めていきたい。 ②教員の ICT の活用促進のため、授業における各教員の取り組みを集約し、校内で共有する機会を設けたい。 ③生徒の図書館利用の評価方法を見直し、業務改善につながる目標の設定を行ってきたい。
		アプリの利用法や活用場面を開発し、職員の ICT 活用能力を高めることにより、生徒の授業満足度を高める。	B		
		校内研修を行い、教育活動に必要な ICT に関する知識を職員で共有する。	A		
		教職員がオンライン授業を実施する際、必要に応じて技術サポートを行う。	A		
	③ オンライン授業における学習環境の整備に努める。	天候不順や自然災害の発生など、様々な場面に対応できるよう、オンラインによる指導体制を整備する。	B		
		教職員がオンライン授業を実施する際、必要に応じて技術サポートを行う。	A		
	④ 生徒の学校図書館の利用促進に努める。	学校図書館の整備により、生徒が安心安全に学習できる環境を整える。	B		
		各教科と図書館を繋ぎ、授業における図書館活用を促進させる。	B		
		図書日よりや新着図書紹介を年に複数回発行し、図書や読書に親しむ態度を育成する。	C		
		図書館内のレイアウトなどを見直し、利用者の利便性を高める。	B		
	⑤ 図書館内の環境整備に努める。	書籍・雑誌等の情報収集に努めて、適切に図書選定を行い、蔵書を充実させる。	A		
		廃棄図書の選定基準を明確にし、蔵書の整理を行う。	A		
		日本十進分類法に基づく、蔵書管理の徹底に努める。	A		
一年次	① 規範意識を高め、基本的生活習慣の定着を図る。	朝の登校指導、昼休みの教室巡回、定期的な頭髪服装指導、生徒面談を実施して生徒の状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期発見と対応を心掛ける。	B		①基本的な学校生活習慣を身につける。 ②進路に対する意識付けを行う。 ③他者への距離感やコミュニケーション能力を身につけられるよう支援をしていく。
		家庭との連携を密にし、服装・頭髪指導を通して規範意識を高める。	A		
	② 基礎学力と学習意欲の向上を図る。	ホームルーム活動で ICT 端末を積極的・効果的に活用することで、生徒が学習に取り組みやすい環境をつくるとともに、授業でもスムーズに活用できるようにすることで、学習意欲の向上につなげる。	B	B	
		基礎学力を測る外部模試を2回実施し、基礎学力の定着度合いを測定する、その結果をもとに、キャリア・パスポートを作成していき、各自の進路に向けた学習の必要性を学ぶことで、学習習慣の定着を図る。	C		
	週に1回、年次で英単語テストと漢字テストを実施して、将来の就職試験や大学入学試験に生かすための基礎学力の定着を図る。	A			
	③ 進路実現のための意識の向上を図る。	学校行事や総合的な探究の時間の活動の中で、生徒の自己理解を深め、進路への関心を高められるようにする。	B		
二年次	① 基本的生活習慣の定着を図る。	登校指導、休み時間、生徒面談などとおして状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期対応を心掛ける。	A		①全体的に基本的生活習慣の定着は見られるが、一部の生徒には改善が図れない者がいる。指導の継続が必要。 ②進路見学会を3コースに分け実施した。生徒の中には仕事に対する興味関心の高まりが見受けられた ③全体的に落ち着いた環境で授業を受けられるように授業態度の指導を徹底する。 書写検定、英語検定、漢字検定、数学検定などの資格取得を目指し、意欲的に学習に取り組む意識を育て、生徒が一つ以上の資格を取得する。 家庭学習時間調査に基づく学習習慣の醸成
		家庭と連携をし、頭髪や服装などの規範意識を高めながら、社会人として必要となる態度を育てる。	A		
	② 多様な価値観を育み、自己理解、他者理解ができるよう支援する。	総合的な探究の時間やLHRにおいて、調べ学習やグループ活動を通して進路意識を高める。	A		
		授業や学校行事などを通して、コミュニケーション能力を育て、良好な人間関係を築けるようにする。	B	B	
	③ 学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育てる。	すべての生徒が安心して落ち着いた環境で授業を受けられるように授業態度の指導を徹底する。	A		
		書写検定、英語検定、漢字検定、数学検定などの資格取得を目指し、意欲的に学習に取り組む意識を育て、生徒が一つ以上の資格を取得する。	B		
	家庭学習時間調査に基づく学習習慣の醸成	B			

別紙様式 2 (高)

三年次	① 基本的な生活習慣の定着と社会人となる自覚の向上を図る。	外部講師の講演会を3回実施し、社会生活に向けた礼儀やビジネスマナーについての理解を深めることで、社会人としての自覚を深める。	A	A	①講演会を多数計画したが、時期が集中してしまったことは否めない。内容をより吟味する必要がある。 ②進路活動は生徒一人一人の希望を実現させることができた。活動時期をもう少し早めた方がスムーズになると思われる。
		生徒面談や家庭との連携を密にし、状況把握や生徒理解に努め、問題の早期発見・対応を徹底する。	A		
		登下校指導や昼休みの巡回、月1回の頭髪・服装指導を通して、規範意識を高める。	B		
	② 自主的・主体的に学習に取り組む態度を身に付け、進路実現に向け積極的に行動する力を養う。	総合的な探究の時間を活用し、それぞれの課題に対して自主的・主体的に解決できる場を設ける。	B		
		生徒・保護者・教員が正確に情報を共有しながら、生徒の進路実現に向けてより良い選択ができるようサポートする。	A		
四年次	① 社会人となる意識を高め、基本的な生活習慣の確立を図る。	面談や電話連絡等を通じて生徒や家庭との連携を密にし、社会人となる意識を高めることで、各生徒が健康的な生活リズムを整え、基本的な生活習慣を確立できるよう促す。	B	B	①環境が変化し、遅刻・欠席が増えた生徒に対し、何が原因で増えているのかを、本人及び保護者との面談を定期的に行うとともに、SSWやSCなどの外部機関と連携して対応していく。 ②外部機関との連携をさらに密にし、生徒個々の特性に応じたきめ細やかなマッチングが必要である。また、就職を希望する欠席日数過多の生徒への指導も充実させる必要もある。
	② 生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。	担任、年次職員と各授業担当で連携を図り、面談や進路ガイダンス、ロングホームルーム等を実施することで、生徒の主体的な進路選択・進路実現を支援する。			

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である